



朝のこない夜はない

山首 鈴木正修

心を柔らかに

東海道新幹線の上りの座席は、富士山がよく見えるという理由から進行方向（東京方面）に向かって左側の方が人氣だそうです。

日本人は富士山が大好きです。「一富士二鷹三茄子」と言いますが、正月の初夢に見ると一番縁起が良いとされるのも富士山です。

富士は「不死」に通じるので不老長寿を、鷹は「高・貴」と訓が共通するので出世栄達を、茄子は「ことを成す」で物事の成就を意味するという説があります。

ちなみに、「一富士二鷹三茄子」の後には、「四扇五煙草六座頭」と続きます。扇は「末広がり」、煙草は「（煙が）立



ち^のち^るる」、座^ざ頭^{とう}は「坊^ぼ主^ず頭^{あたま}（毛^けが^{ない}Ⅱ怪^け我^がない）」という
ことだそうです。

最^{さい}近^{きん}、富^ふ士^じ山^{さん}にまつわるニュースが二つありました。一
つは、東京^{とうきょう}の国^{くに}立^{たち}市^しのマンシ^{まん}ヨ^{よん}ンが完^{かん}成^{せい}したにもかかわら
ず、近^{きん}隣^{りん}からの「富^ふ士^じ山^{さん}が見^みえにくくなる」という苦^く情^{じょう}で、
引^ひき渡^{わた}し直^{ちよく}前^{ぜん}に取り壊^{こわ}されるという話^{はなし}です。国^{くに}立^{たち}市^しには
「富^ふ士^じ見^み通^{とお}り」という通^{とお}りがあります。その通^{とお}りの両^{りょう}側^{がわ}に
商^{しょう}店^{てん}街^があり、そこ^{しよ}から富^ふ士^じ山^{さん}がよ^みく見^みえるそうです。そ
の富^ふ士^じ見^み通^{とお}りの端^{はし}にこのマンシ^{まん}ヨ^{よん}ンは建^{けん}設^{せつ}されま^{した}。当^{とう}
初^{しよ}11階^{かい}建^だてで予^よ定^{てい}されていたところ、付^ふ近^{きん}住^{じゅう}民^{みん}の反^{はん}対^{たい}があ
り、10階^{かい}建^だてに変^{へん}更^{こう}され^たそうです。それでも、批^ひ判^{はん}があ
まりにも多^{おほ}かつたので、施^せ工^{こう}業^{ぎやう}者^{しや}が完^{かん}成^{せい}したマンシ^{まん}ヨ^{よん}ンの



自主的な解体を決定したということです。おそらく、そのマ
ンションからは、富士山がよく見えたでしょうから、入居を
予定していた人達は残念がったのではないかと思います。

もう一つのニュースは、山梨県・富士河口湖町にあるコ
ンビニの話題です。このコンビニの上に雄大な富士山が乗
ったように見えるのです。その評判がSNSで拡がり、外
国人観光客が大勢押しかけるようになったそうです。しか
し、観光客が撮影のために交通量の多い道路を横断したり、
無断で私有地に入ったりする行為が後を絶たないことから、
町の人達が迷惑を被るということと危険防止のため、その
一帯に黒い幕を張りめぐらして富士山を見えなくしたそう
です。

富士山が好きという点では日本人も外国人も変わらない



ようです。

富士山ふじさんといえ、葛飾北斎かつしかほくさいの「富嶽三十六景ふがく三十六けい」が有名です。「三十六景けい」と言いますが、実際は四十六景じっさい けいあります。当初とうしよは三十六景けいでしたが、その後、人気にんきが出て十景けい足したそうです。最初の三十六景さいしよ けいを「表富士おもてふじ」、後の十景あとの けいを「裏富士うらふじ」と呼びます。特に人気にんきがあるのが、「凱風快晴がいふうかいせい」(通称・赤富士あかふじ)です。昔から部屋へやに飾ると縁起えんぎが良いと言われています。最も有名な「神奈川沖浪裏かながわおきなみうら」は新千円札しん せんざつの裏面うらめんに採用さいようされました。また、「尾州不二見原びしゅうふじみはら」は現在げんざいの名古屋市なごやし中区富士見町みちうへん周辺みから見た富士山ふじさんが描かかれています。その絵には大きな樽たるを作っている職人しよくにんが描かかれています。そして遠くとほに小さな富士山ふじさんが見えるのです。北斎ほくさいは



弟子が名古屋にいて、何度か遊びに来ていたようで、その時に「不二見原」という地名に興味を持ってこの絵を描いたそうです。

しかし、実際は名古屋から富士山が見えることはありません。北斎の研究者がその地名の由来を調べてみたところ、富士山が見えたという記録はあるそうですが、本当のところは南アルプスにある聖岳を富士山と見誤ったということだそうです。

北斎は世界的にも非常に評価の高い人物です。

『LIFE（ライフ）』というアメリカの有名な雑誌があります。その雑誌が1998年に「この1000年間で最も偉大な業績を残した世界の偉人100人」という特集を



組み、その中にレオナルド・ダ・ヴィンチやシェイクスピア、エジソン、アインシュタインと並んで唯一人の日本人として葛飾北斎をとりあげたのです。

北斎の代表作はほとんどが70歳を過ぎてから描かれたものです。平均寿命が40歳未満であった江戸時代に、北斎は90歳まで生き、絵を描き続けたのです。6歳から絵を描き始め、19歳の時に浮世絵師・勝川春章の弟子になり、勝川春朗と名乗って歌舞伎役者の絵を描いていました。今の時代でいうと、アイドルやスターのプロマイドのようなものを描いていたのです。勝川派を離れた後は、江戸琳派の先駆者・俵屋宗理の弟子になり、今度は江戸庶民の女性の絵を描いて、とても人気を博したそうです。その後、賄賂政治で有名な、老中・田沼意次の後を継いだ松平定信が「寛



政の改革」という緊縮政策を行い、世の中の風紀を乱す絵は一切禁止となりました。役者や女性の絵が描けなくなってしまった北斎は、小説の挿絵を描くようになりました。北斎は70歳を過ぎた頃に、次第に絵が上達していることを自覚して次のように言っています。

「70歳以前の絵は取るに足らないものだった。73歳になった頃、鳥獣虫魚の骨格や草木の生まれいずる様子をいくらかは悟ることができた。だから80歳になればより向上し、90歳になればさらに奥義を極め、100歳で神の業を超えられることができるのではないか。そして110歳で点や線のすべてが生きているかのごとく描けるようになるだろう」

しかし、また北斎に危機がやってきます。天保の大飢饉が起ったのです。大阪では、有名な大塩平八郎の乱が起



こりました。幕府はさらなる緊縮政策（天保の改革）をとり、芝居や絵など娯楽的なものを一切禁止したのです。ちなみに七代目市川團十郎は江戸追放になっています。商売ができなくなり、生活に困った北斎は闇で絵を描いて、それを道端で売ったのです。そこをたまたま通りかかった信濃の小布施の豪商・高井鴻山が気に入って、高値で買い上げました。その後、高井鴻山は言いました。

「お金はいくらでも出すから、小布施にある檀那寺・岩松院の天井絵を描いてほしい」

北斎はそれを引き受け、江戸から信濃の小布施まで中山道を通って絵を描きに行きました。東海道よりも道が険しい中山道を、往復500kmある道のりを、北斎は四回も往復したのです。完成時、北斎はなんと89歳でした。完成し



た岩松院の天井絵は畳21畳の大きさで「八方睨み鳳凰図」という北斎最晩年の傑作です。

現在、小布施には北斎の記念館・北斎館があり、北斎が描いた祭屋台の天井絵など数々の作品が展示されています。「110歳まで生きたら…」と言っていた北斎は、小布施から江戸に帰って間もなく90歳で息を引き取ります。

その臨終の様子が『葛飾北斎伝』にあります。

「翁（北斎）死に臨み、大息し、『天我をして十年の命を長ふせしめば』といひ、暫くしてさらに謂て曰く、『天我をして五年の命を保たしめば、真正の画工となるを得べし』と、言訖りて死す」

〃あと十年、いやせめて五年、生かしてくれ。そうすればまことの絵師になってみせる〃



北斎は臨終の瞬間まで、絵に対する燃えるような情熱を持ち続けていたのです。

ここで逸話を紹介しようと思います。北斎は80歳を過ぎ、達人の域にあったと思われる頃に、こんなことを言ったそうです。

「まだ猫一匹とともに描けない」
そして涙を流したと言います。

かつて、日本画の最高峰であった横山大観が、日本画壇の総会の時に、重鎮として挨拶に立ち、「絵はむずかしいわからん」と言い、聞いた人達が恐れ入って頭を垂れたという話を思い出します。



他にも北斎は画号を三十回以上変えたことで有名です。

また「引越魔」だったことでも有名です。生涯で九十
三回転居したという記録があります。驚くことに一日に三
度引越したこともあるそうです。

北斎は「百回引越したという俳人・寺町百庵に倣って
わしも死ぬまでに百回転居したい」と言っていたようです。
引越しばかりしていた理由は他にもあります。北斎は絵
に集中しすぎて、部屋の片づけを全くしなかったのです。
食べたものはそのまま、部屋の中はもうぐちゃぐちゃです。
あまりにも汚くなって、住みにくくなると引越したので
す。

北斎には出戻った娘・お栄がいました。画号を葛飾応為
といいます。この人も絵が上手だったそうです。しかし、



ふたり 二人とも物臭で、全く掃除をしないし、料理も作らず、人
からもらったものや買ってきたもので済ませていました。
蕎麦の出前で済ませたことも多かったようです。二人は9
月下旬から4月上旬まで半年以上、昼夜こたつに入って、
絵を描き続けたそうです。絵を描くことだけにすべてを尽
くしたため、生涯貧乏で、生活に困っていたという話もあり
ます。しかし、平均寿命40歳未満の時代、北齋のような
生活をした人が歳を重ねても元気で、90歳になっても素晴
らしい絵を描き続けたということを皆さんはどう思われま
すか。

わたしは北齋の人生を知ってアメリカの詩人、サミュエル・
ウルマンの『青春』という詩を思い出しました。GHQの



総司令官、ダグラス・マッカーサー元帥が座右の銘として
いたことで有名な詩です。

青春とは人生の或る期間を言うのではなく

心の様相を言うのだ

逞しき意志 優れた想像力 炎ゆる情熱

怯懦を却ける勇猛心 安易を振り捨てる冒険心

こういう様相を青春というのだ

歳を重ねるだけで人は老いない

理想を失う時に初めて老いがくる

歳月は皮膚のしわを増すが

情熱を失う時に精神はしぼむ

苦悶や狐疑や不安 恐怖 失望



こういうものこそ恰も長年月の如く人を老いさせ

精氣ある魂をも芥に帰せしめてしまう

歳は七十であろうと　十六であろうと

その胸中に抱き得るものは何か

曰く　驚異への愛慕心　空にきらめく星晨

その輝きにも似たる事物や思想に対する欽仰

事に処する剛毅な挑戦

小児の如く求め止まぬ探求心

人生への歡喜と興味

人は信念とともに若く　疑惑とともに老ゆる

人は自信とともに若く　恐怖とともに老ゆる

希望ある限り若く　失望とともに老い朽ちる

大地より　神より　人より



美びと喜き悦えつ 勇ゆう氣きと壯そう太だい

そして偉い力りきの靈れい感かんを受うける限かぎり

人ひとの若わかさは失うしなわれない

これらの靈れい感かんが絶たえ

悲ひ歎たんの白しら雪ゆきが人ひとの心こころの奥おくまでも蔽おほいつくし

皮ひ肉にくの厚あつ氷こおりがここれを固かたくとぎすに至いたれば

この時ときにこそ人ひとは全まったくに老おいて

神かみの憐あわれみを乞こうほほかはなくなる

まさに北ほく斎さいの人生じんせいを彷彿ほうふつとさせる詩しだと思おもいます。

最近さいきんの健康けんこう法ほうでは「食たべる物ものに氣きをつけなさい」とか

「日常的にちじょうてきに運動うんどうをしなさい」とよく言いわれますが、北ほく斎さいは



まったくその逆でした。確かに健康のために動くことは大事だと思えます。動かないとだんだん身体が硬くなってきます。ですから健康のためには、「ストレッチをなさい」とか「歩きなさい」と言われます。身体を動かすと血管や内臓も柔らかくなります。それによって脳梗塞や心筋梗塞、諸々の病気の予防になるわけです。

しかし、やはり一番大事なことは、北斎の生涯でわかるように、身体以上に心を柔らかくすることだと思えます。歳を重ねると、心が固くなって、頑固になりがちです。また物事に対する興味、関心も薄らいできます。『青春』の詩のように、できる限りしっかりとした理想や目標を持って生きていくことができれば、さらにそこに三徳の教えがあれば、間違いなく有意義な人生が送れると思えます。

